

平成25年度(2013年度) 生徒指導・人権に関する研究Ⅱ

共感的人間関係をはぐくみ、安心感のある学級集団を目指して

－学級活動と朝や帰りの会を関連させて取り組む学習プログラム－

キーワード

共感的人間関係      安心感のある学級集団      ステップアップタイム  
「クラス会議」      ピア・メディエーション      もめごとや対立に関わるための学習

目次

研究構造図	.....	(1)	IV 研究の進め方	.....	(3)
I 主題設定の理由	.....	(2)	1 研究の方法	.....	(3)
II 研究の目標	.....	(2)	2 研究の経過	.....	(3)
III 研究についての基本的な考え方	.....	(2)	V 研究の内容とその成果	.....	(4)
1 「安心して自分を表現できる」 という視点	.....	(2)	1 10年経験者研修受講者への調査	.....	(4)
2 「一人の悩みをみんなで考える」 という視点	.....	(2)	2 学級活動と関連させて取り組む 学習プログラムの作成	.....	(4)
3 「社会的なスキルを身に付ける」 という視点	.....	(3)	3 活動の内容とプログラムの実証	.....	(6)
4 「多くの場や機会を設定する」と いう視点	.....	(3)	4 生徒の変容	.....	(11)
			VI 研究のまとめと今後の課題	.....	(13)
			1 研究から明らかになったこと	.....	(13)
			2 今後の課題	.....	(13)
			文 献		

平成25年度(2013年度) 生徒指導・人権教育に関する研究Ⅱ  
**共感的人間関係をはぐくみ、安心感のある学級集団を目指して**  
 —学級活動と朝や帰りの会を関連させて取り組む学習プログラム—

研究員 池澤 昇

## キーワード

共感的人間関係	安心感のある学級集団	ステップアップタイム
「クラス会議」	ピア・メディエーション	もめごとや対立に関わるための学習

### 1 研究の背景と目的

近年、地域社会における人間関係の希薄化などが進む中で、家庭や地域社会において社会性を身に付ける機会が減少しており、いじめや暴力行為などの一因になっていることが指摘されている。また、滋賀県いじめ対策研究チーム会議による「中間報告書」(平成25年)では、学校における集団づくりに課題があることが指摘されており、具体的な方策として「子ども達が自分達で解決できるような人間関係づくりをしていくことが大事である」と示されている。

本研究では、学習プログラムを作成し、自分たちで問題を解決する場や機会を設定する。それを積み重ねることで一人の悩みをみんなで考えようとする共感的人間関係をはぐくみ、安心感のある学級集団を育てることを目指す。

### 2 研究の方法

中学校第1学年における学級活動(全3時間)と朝や帰りの会を関連させた学習プログラムを作成した。

学習プログラムでは、まず朝や帰りの会に「ステップアップタイム」を行う。ステップアップタイムとは、少人数のグループで話し合う活動である。中学1年生はクラス内で、周りの生徒を意識して自分の思いを表現することが難しい発達段階にある。ステップアップタイムは、それを乗り越え、集団内で自分の思いを表現できるようになることをねらいとする。徐々にグループの人数を増やすことで、より多くの人数の前で自分の思いを表現できるようにした。

次に、クラス全員での活動に発展させた「クラス会議」を行う。クラス会議とは、生徒から挙げた個人の悩みや困ったことを解決する活動である。このクラス会議を継続することによって、一人の悩みや困ったことに対して、解決のアイデ

ィアを出し合い、一人の悩みをみんなで考えていこうという雰囲気のある学級集団をつくる。

その後、朝や帰りの会での活動を継続しながら、自分の思いを表現する経験をいかし、学級活動を行う。もめごとや対立の解決方法を考え、スキルを身に付けさせる。そして、もめごとや対立が生じたとき、積極的に関わっていかうとする態度を育てられるようにした。

研究協力校において学習プログラムを実施し、アンケート調査や活動の観察、ワークシート等を活用して、自分の思いを表現することや、他の生徒との関わりについての意識および行動の変容を考察し、学習プログラムの効果を検証した。

### 3 結果

学習プログラムの実施を通して、誰かの悩みや困ったことを解決するために、自分の思いを表現することや他の生徒のアイデアを聴くことに関して意識の高まりが見られた。

また、もめごとや対立に関わる第三者の役割について実際に関わるということに難しさがあることも分かった。

事前・事後調査の結果からは、人の悩みをみんなで考える機会が増え、相手の気持ちになって考えたり行動したりする意識が高まったことが分かった。

### 4 結論

学習プログラムの実施を通して、他者を思いやる共感的な人間関係や、自分の思いを表現できる安心感のある学級集団づくりにつなげることができた。また、もめごとや対立に関わるための学習を展開したことで、生徒同士で問題を解決する意欲や態度を育成することにつながった。